（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1271400135		
法人名	医療法人社団 東方会		
事業所名	グループホーム　あんじん		
所在地	〒287-0003　千葉県香取市佐原イ1681		
自己評価作成日	平成26年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成26年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・愛　愛されていない命は一つもない。　尊重　尊ばれない命は一つもない。
　この理念を運営やケアサービスを提供する上での拠り所としています。
・買い物、散歩、外出（佐原大祭、子供会への参加等）を通じて地域の中での暮らしを支援していきます。
・医療連携の充実を図り、利用者のニーズに応えた生活支援を提供していきます。
　グループホーム内ではTV体操の時間に皆で体を動かすことが楽しみになっています。また、週２回タクティールにて癒しの時間を過ごされます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

スタッフは利用者や家族から「愛」や「尊厳」の大切さを学び、事業所の理念を深めつつ支援をしているが、事業所では更に外部研修をとり入れ、スタッフの人間性を高め「心からのおもてなし」を極める取組を行っている。

また、佐原は地域の町内会も防災も更には、山車を引き廻す若い衆が町内の子供会の世話役を兼ねる等、お祭りを中心に動いている。利用者は町内の子供会に参加し、食事、ビンゴゲーム等を楽しんでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛」愛されていない命は一つもない「尊重」尊ばれない命は一つもない。日々の生活支援の原点になっている。利用者や家族から命の大切さをとおし、愛する心や尊厳を持って生きることの意味を教えられています。	スタッフは利用者や家族から「愛」や「尊厳」の大切さを学び、事業所の理念を深めつつ支援をしているが、事業所では更に外部研修をとり入れ、スタッフの人間性を高め「心からのおもてなし」を極める取組を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩、町内の子供会、佐原の大祭見物、など積極的に行っている。	佐原は地域の町内会も防災も更には、山車を引き廻す若い衆が町内の子供会の世話役を兼ねる等、お祭りを中心に動いている。利用者はかかる町内の子供会に参加し、食事、ビンゴゲームを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会で、認知症よろず相談所としての看板の話や認知症サポーターリング等をお伝えしています。地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当ホームの現況、スタッフの勤務状況、研修報告し、事故報告・苦情報告から、より良い運営方針や改善点を話し合いしている。家族と一緒に利用者の方にも参加してもらい意見を頂きました。	町内区長、近隣の方、市職員、ご家族が参加している。会議では「重度化の際の介護食」と「転倒を防止するための取組み」を取り上げ意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成26年度第1回運営推進会議を開き、香取市地域密着サービス連絡会開催、参加等協力関係を築くようにしている。	定例の香取市地域密着サービス連絡会にはケアマネが出席し、市の福祉保健課の担当者とサービス提供や運営に関して意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会などに参加し、ミーティングの際にチェックシートを利用して勉強会を行いケアにつなげている。	事業所は職員を研修会へ参加させるなど理解を深める取組を行っている。また、ミーティングの際に、チェックシートを用いて日ごろの支援行動について身体拘束やスピーチロックが無いかを点検している。疑義があれば、改善案を提起し周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底のため、職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見制度について熟知するよう努めている。現在利用者の中に一人この制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にも十分な説明を行い、改定時は、文章をつけて個々に説明をし、不安や疑問点をたずね、理解と了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で利用者や家族からの意見を伺い、運営に反映させている。	家族家族よりリビングの過ごし方についての要望があり、その後利用者のニーズを取り入れ、刺し子、ごみ箱つくり、体操等が積極的に行われるようになった。更に家族会や運営推進会議、面会で来所する家族から意見を聞き出すように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員の意見や提案を訊く機会設け反映させている。利用者の声やおもいを具体的に計画できるように、担当を決めながらすすめている。	月に1回の定例ミーティングの他に必要に応じプチミーティングを持ち、個別の課題に対応することとしている。職員から提起された改善案を推進するに当たっては、責任者が周知と最終確認を任されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなど職員が個々に意見をのべる場を設け、前向きに仕事ができ、ホームの雰囲気を感じながら明るく仕事を楽しめるよう考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修し、管理者や職員を経験に応じ育成するための計画を立て、勉強会（ミーティング）を月1回実施し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等で同業者と交流する機会をもち、勉強会や他の施設などの見学会等を実施し、質の向上に取り組んでいる。 香取市医療福祉行政交流会に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接に伺い、緊張と不安を和らげるようスタッフより意識的に言葉かけや会話する場面を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安なことに耳を傾け、より良い関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や担当者会議等で状況を見極め、必要としている支援を検討。即対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力、希望に応じ、出来ることはやっていただけるような環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近場に遠足の予定を計画し、家族をお誘いする。都合がつけば一緒に参加して頂く。正月を家族と過ごしたり、自宅でのお茶飲みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の思いを伺い、馴染みの人や場所などの関係が途切れないよう支援している。月1回家族の協力で知人との外食を楽しまれている方がいる。	佐原は祭りの街であり利用者も大祭を一番の楽しみにしている。祭りでは、地域の馴染の人たちと再会し、賑わう。利用者も各所から声の掛る町並みが気に入っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者の個性を把握し、孤立することなく生活できるように支援する。お客様間では会話が成り立たない場面がみられるのでスタッフが間に入り、やり取りをスムーズにし、興味を持っていただけるよう工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の小規模多機能事業所へ移られた利用者より食事介助の方法や、作り方を聞かれ相談に応じる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に以前からの状況を伺い、現在の暮らし方を考慮しながら本人、家族の意向に応えるよう支援している。また、職員の気付きや本人の言葉、表情の中から本人本位の視点で思いを把握している。	入居前の生活状況や本人・家族の意向を把握し、現在の暮らし方を考慮しながら生活支援をしている。ケアプランを立てるときは本人に聞いたり、言葉や表情から意向を汲み取り利用者の視点に立った対応に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、チームからの情報を集めて生活歴、馴染みの暮らしを把握する。家族に伺ったり、本人の生活ぶりをスタッフ間で予測しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌の記録を中心に個々の状態を引き継ぎながらミーティングでスタッフの共通理解を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し、チームより情報を集め、ミーティングにて家族の意向を踏まえながら課題とケアのアイディアと工夫を話し合う。本人と家族に介護計画説明と了承を得る。モニタリングも同様。	職員全員でミーティングを行い家族や本人の意向も考慮した上で本人本位の介護計画を作成している。モニタリングは3～6ヶ月で見直しを行い変化が有った場合は緊急ミーティングでケアを優先して作り直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に個別記録を記入し、当日のスタッフが必要なことを申し送って、スタッフ全員が目を通し確認し、情報を共有。また、意見を出し合い、ミーティングでの気付き、アイディアの工夫をセンター方式を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人で隣接するデイサービスより入居された利用者が馴染みの友人に会い、共にレクリエーションに参加できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の参加を呼びかけ、利用者と一緒に星太鼓祭りを観賞する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院の医師のために、本人家族ともに納得している。また、適切な医療を受けられるように他医療機関と連携をとっている。	事業所の目の前が主治医が居る系列医院であり利用者は、毎月1回受診している。また、緊急時はすぐに往診でき、日常の健康管理や医療連携の支援が適切になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の一人が看護師として従事しているために、日常の健康管理や医療連携の支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を持参し、病院関係者と情報交換をし、退院に向けて合同会議をすることがあった。又、研修にて関係づくりをおこなった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を図りながら本人や家族の意向を伺い、終末期に関しては家族と共に本人の心に寄り添えるようにしている。	重度化や終末期の対応については、主治医・家族・職員等の関係者で話し合い、対応及び方針の共有化を図っており、ターミナル期に入った場合はノートに記入し、家族・スタッフとの情報共有を図り、医師に常に報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、職員全体が熟知するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応として、警察、消防署に即時に協力依頼できるようにしている。夜間を想定した自主消防訓練を行い、避難方法等確認をした。又、緊急用の連絡網を作成した。	夜間を想定した防災訓練を実施し、避難方法や避難場所等を確認した。また、災害と思われる時は消防署と直通のボタンを押す事の確認もした。緊急連絡時は近隣にも連絡が行く事になっており、協力体制が取れている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送り方法や声かけに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。	個人の記録・書類等は所定の場所に施錠ができる状態で保管している。日常的に利用者のプライバシーに配慮し、申し送りや声かけに気を配り、例えばトイレの呼び方も1番・2番として職員だけが分かるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明して希望を伺うようにしています。なるべく具体的に分かりやすく話をして、本人の表情や行動から気持ちを受け止めることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいですか？と聞いて、希望にそったり、具体的な提案をして選んでいただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に応じて化粧の支援を行ったり、2ヵ月に一度パーマ屋さんに来てもらいヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルを囲み、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。食べたいものを伺い、盛り付けに工夫し、個別に用意しておく。	希望や能力に応じて食事の準備・盛付・片付け等共同で行っている。利用者はその日に食べたい物を工夫しながら作り、時には人によりおかずを変えて食の楽しみを支援している。又食べたいものを伺いながら外食先を決め、実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方は水分量を測り、記録をとりながら把握し、引き継いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝時には口腔ケアを行う。入れ歯の方は洗浄剤を使用、うがいして頂く。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたくなったらいつでも行けるよう配慮し、本人の行動パターンを把握し、本人のやり方を重視して自立支援している。	利用者一人ひとりの排便表を用いて排泄パターンを把握している。薬を使用している時は主治医に報告し常に把握している。最高齢の103歳の方も紙パンツから夏はパンツに変える等して排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を表にて記録し把握しながら本人に意識づけたり水分野菜を多く摂取していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣場は暖かくしてあり、入浴は毎日実施している。本人の希望に応じて回数、時間帯等柔軟に対応している。本人のタイミングを見て声かけ指導している。	利用者の希望・体調等細かく注意を払いながら支援を行っている。身体状況に応じて併設のデイサービスの機械浴を利用している。一番風呂が好きな人など、それぞれ自分流の入浴法を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思による行動や言葉、様子より横になったり、ソファにてくつろいでいただく。夜間は排泄後安心して眠れるよう支援している。不眠の心配な方は、主治医の指示のもと眠剤を服用し、眠られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬の説明書を確認し内容を把握しておき、特に薬が変わったときは効果、副作用について注意してみて症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力、希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。デイサービスのレクにも参加し、外部との交流も図る。季節の行事、誕生会、旅行を企画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「○○を買いに行きたい」と利用者よりの要望があるので即実行できるよう勧めている。入居者の希望に応じて散歩、買い物を行っている。お花見（桜、藤、あやめ、あじさい、バラ、コスモス、菊の花）、ひな祭りめぐり、五月人形めぐり、市内の行事などにも参加し、時には外食なども楽しんでいる。	買い物等について目的意識がはっきりしているので、利用者の要望に対応している。定期的にお花見やお祭等の外出や食事会も行われている。家族と一緒に成田山や香取神宮・大杉神社等へ行き、今後はスカイツリーを見に行く事も予定している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はバックの中に財布をもち、購入する際に自分で支払う様子があれば確認しながら見守る。事前に家族より預り、本人にお知らせして払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に職員が本人の意向を聴き、でんわをかけたり、本人に話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の室内装飾や花、外出時の写真を飾ったり、風呂場は温風ヒーターを、リビングにはテレビや心地良い曲を流している。	施設内はバリアフリーで玄関・浴室・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。行事毎に写真がはられてあり利用者はそれぞれ自分の写真を見て当時を思い出し楽しんでいる。トイレの電気は常につけてあり何時でもわかるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気軽に話をしたり、活動できるように席や言葉かけを工夫する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇のある居室があり、また、家族と相談しながらTVを設置。本人の使い勝手の良いよう配慮、支援している。又、写真を壁に貼ったり、棚の上に飾ったりする。	希望により馴染みのものを自由に持ち込むことが可能となっている。全居室に洗面台とトイレが設置されており、利用者のプライバシーを確保していると共に安心感を与えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレの場所がわからない方にはさりげなく場所を教えたり、歩行器や車いすなどがぶつかったりして危険の無いように配慮する。		